

マニュアル概要

「解決志向のクラスづくり」においては

- 「うまくいっていること」や「できていること」を観察し伝えます。
- 子どもたちが、自分たちの状態を見つめる方法を伝え、よりよい状態をつくっていくことを支援します。

それによって、以下のような効果が期待できます。

- 子どもたちが、自分たちの力でよりよいクラスをつくっていくことができるようになる。
- 自己肯定感を高め、仲間同士で認め合う関係をつくることのできるようになる。

どんなときに使えるか ◆ ◆ ◆ ◆ ◆

「クラスをよりよくしたい!」と思ったとき、どんなクラスにも利用できます。このプログラムは、小学校中学年から中学生に合うようにつくられていますが、年齢に合わせたアレンジを加えれば、小学校低学年から高校生まで、より幅広く利用できます。

クラスの状態が大変なとき、支援員、カウンセラー、ボランティア、時には管理職や他の先生が教室に入り支援をすることがあります。そんなときの支援方法の一つとして、「解決志向のクラスづくり」を活かすことができます。

誰が「クラスアシスタント (CA)」になるか ◆ ◆ ◆ ◆ ◆

「解決志向のクラスづくり」では、担任ではない第三者が「クラスアシスタント (以下、CA)」としてクラスに入ることで、クラスを支援する方法をとります。CAは、後述する「心構え」を理解していれば誰でもなることができます。例えば支援員、スクールカウンセラーや相談員が行うこともできますし、養護教諭や担任以外の教員、管理職などでも可能です。自分が担当しない専科授業などに担任自身がCAとして入ることもできます。また、地域の方や保護者、ボランティアなども協力していただける場合があります。

1つの学級で行う場合は担任とCAの打ち合わせで進められますが、学年全体、学校全体で行う場合はコーディネーター役がいるとスムーズです。

実施マニュアル全体像
(17頁の図)を参照!

「解決志向のクラスづくり」の方法

- ◆週に1時間程度、CAが授業や休憩時間の教室に入って、クラスの様子を観察する（観察は何の時間でも可）
- ◆観察のポイントは、「できていること」。できていないことには注目しない
- ・活動は、〈ステップⅠ：観察・できていることのフィードバック〉と〈ステップⅡ：クラスのスケーリング〉の2つから成り立っています。
- ・17頁の「実施マニュアル全体像」のように、2つのステップを合わせて全5回で進めていきます。
- ・〈ステップⅠ〉では、授業の最後に10分ほど時間をいただいて、CAが観察した「できていたこと」をクラスに伝えます。これがすべての基礎となります。
- ・〈ステップⅡ〉では、よりよいクラスになるための「目標」設定の仕方として、自分たちの状態を「スケーリング」（1～10の数字の段階）で考える方法を伝えます。
- ・〈ステップⅠ〉に連動して〔クラス活動A：いいところ探し〕、〈ステップⅡ〉に連動して〔クラス活動B：みんなdeスケーリング〕を提案し、CAがいないときにクラス活動を担任主導で継続できるように支援します。

各回の主な活動内容

事前準備：活動前に、校長・主任・担任等と情報交換や話し合いを行います。

1回目：〈ステップⅠ〉を実施します。できていることを観察し、授業最後にクラスに伝えます。それに連動して〔クラス活動A：いいところ探し〕を提案します。

（授業の最初に「あいさつ」で）教室の後ろから、このクラスがどんなに素晴らしいクラスなのかを観察して、授業の最後に、観察したことを皆さんにお伝えします。

活動A いいとこ探し

クラスの仲間同士でも素敵などころを見つけ合ってみましょう。見つけたら、シールに書いて、相手のファイルにこっそり貼っておいてください。

2回目：〈ステップⅠ〉を継続し、〈ステップⅡ〉に入ります。CAがクラスの状態をスケーリング（1～10）し、子どもたちに最高に素敵なクラス（10の状態）を具体的に考えてもらい、ワークシートに書いてもらいます。

1から10の目盛りで、10をとて素敵（最高の）クラス、1をとて残念なクラスとしたら、このクラスはいくつかということをお伝えします。

10のとき、このクラスはどんな様子なのでしょう。10のとき、皆さんはこのクラスでどんなことに気がつくでしょう。

3回目：〈ステップⅠ〉は適宜行い、〈ステップⅡ〉を進めます。「クラスが10の状態」のまとめをクラスで共有し、クラスのスケーリングを、まずCAが行い、次に子どもたちも行います。そして、クラスのスケーリングを毎日行う〔クラス活動B：みんなdeスケーリング〕を提案します。

今度は、皆さんが、自分が考えるこのクラスの状態を1から10の目盛りで考えてみてください。他の人と違って大丈夫です。

活動B みんなdeスケーリング

これから毎日、「今日のクラスの状態」を数字で記録してみましょう。「できていたこと」「よかったこと」も見つけて、メモしておきましょう。

4回目：〈ステップⅠ〉は適宜行い、〈ステップⅡ〉を展開します。まず子どもたちがクラスのスケーリングを行い、さらに子どもたちにクラスが一步進んだ状態を考えて、ワークシートに書いてもらいます。

このクラスが「 」から1ポイント上がって、一步進んだ状態になったとしたら、どんな感じか、教えてください。

5回目：〈ステップⅡ〉をしめくくります。「クラスが一步進んだ状態」のまとめを共有し、子どもたちがクラスをスケーリングし、クラスの一步進んでいることを見つけます。CAも、クラスが一步進んでいることを伝え、今後も続けたい活動を行うように提案し、さらに素敵なクラスになる期待を伝えます。感想を書いてもらい、後日、CAがクラスに手紙を書くこともおすすめです。

実施マニュアル全体像

	1回目	2回目	3回目	4回目	5回目
事前準備	〈ステップⅠ：観察・できていることのフィードバック〉 「クラスのうまくいっていること」を見つけ、事実を伝える、プログラムの中核要素				
	①観察し、授業最後にコメント		②観察し、適宜コメント、後に紙面で伝える等		
クラスアシスタント（CA）訪問	〈ステップⅡ：クラスのスケーリング〉 10（最高に素敵な状態）～1（残念な状態）の目盛りで、クラスの状態について考え、その数に達した理由（小さな成功要因の集積）を考え合う				
	①スケーリング（CA） CAがスケーリングを行う				
	②素敵なクラスの状態を考える クラスが最高に素敵で、みんなが安心して過ごせるとしたら、どんな状態（10の状態）かを具体的に考え合う				
				③スケーリング（子ども） 子どもたちでスケーリングを行う	
					④一步進んだ状態を考える 現在の状態からクラスが一步進んだ状態はどんな状態か考え合う
・週に1回、各回40分程度観察を行い、その後10分程度時間をもらって活動する。					
担任主導のクラス活動	活動A いいところ探し グループで互いにいいところを見つけ合い、メモしたものを交換し合う		活動B みんなdeスケーリング 毎日、各自でスケーリングを行い、それをクラス全体でも集約する		
	・CAが入らない日も行える、ワークシートを使った簡単な活動を提案する。 ・担任がリードしつつ、子どもたちで楽しみながら行う。				
協働	・学校長、担任等の思いを常に大切に、随時相談をしながら、個々のクラスの状態や配慮事項、目指したい学級像に沿って支援を行う。				

